日本経済新聞 新潟版

09年（平成21年）6月20日（土曜日）

特産品でご当地ヒーロー

印刷業のクラビス

ショー出演や書籍販売…

キャラクター ビジネス進出

印刷業のクラビス（新潟市、浅川進社長）はキャラクタービジネスに進出する。新潟県の産業や特産品をモチーフにしたご当地ヒーローを作り、ショーに出演させる。関連書籍の販売なども展開。同社は同人誌など漫画関連の印刷が主力であり、本業と結びつきやすい分野で収益拡大をめざす。

柿の種など新潟県をモチーフにした武器を持ち、怪人と戦う設定だ

新たに作り出すご当地ヒーローは新潟をもじり「超耕（ちょうこう）21ガッター」と名付けた。秋田県の人気ご当地ヒーロー「超神（ちょうじん）ネイガー」を生み出したエフツーゾーン（秋田県にかほ市、海老名保社長）に作成を依頼した。

新潟県のコメを食い荒らす宇宙怪人とガッターが戦い、新潟のコメと平和を守るという設定。ガッターは柿の種型の鎌、ガッターの味方となるキャラクターは、さき団子型の爆弾を持つなど、新潟の名産品をモチーフとした武器を使う。怪人はカメムシなど稲作の害虫をモデルとした。

クラビスが版権を管理し、ビジネスを展開する。手始めにイベントやショッピングセンターでのヒーローショーを実施する。必要な衣装はエフツーゾーンが制作した。

第1弾として7月11日に新潟県長岡市、7月12日に新潟市でのイベントに出演する。怪人役は新潟県内で活躍するお笑い芸人に演じてもらう予定。既存のキャラクターのショーよりも安価な出演料を設定する。

ショーで認知度を高めた後、グッズの販売ビジネスも展開する。キャラクター本や漫画、ノートなど本業に関連する分野のほか、玩具メーカーと契約し、人形販売によるライセンス収入などを得る計画。初年度はショーを中心に500万円程度の売り上げを目指す。

クラビスの2009年3月期の売り上げは約1億6000万円。同人誌の印刷のほか、漫画を使った会社案内などの印刷を手掛けている。